

インタビュー

（株）京写
代表取締役 社長執行役員

児嶋 一登氏



プリント基板事業を当社に
移管することにより顧客の
幅がさらに広がる。なかで
も、既存の自動車のヘッド
ライト向けに加え、新たに
パワー半導体、電源機器向
けを大きなターゲットと
し、大幅に増加させる。大
電流などに対応できる技術
開発を日本、中国の両方で
進めている。

——それに伴う生産体制
の変化や投資計画は。

児嶋 26年3月期はイン
ドネシアへの投資をメイン
に計画している。これまで
輸出拠点としていた中国工
場において、BCPを含め
たリスク分散としてASE
AN地域での生産を伸ばし
ている。そのため、当社の
中国工場に加え他社の受け
皿としても活用する。顧客
ニーズに対応できる新たな
設備の導入により、品質向
上や増産を進めていく。ま
た、中国では金属基板など
高付加価値製品に対して投
資を進めている。

——インドでの新拠点開
設を発表されました。

児嶋 インドでの引き合
いが増加しており、インド
市場でのプリント配線板の
事業拡大や市場調査、マー
ケティング活動を強化す
る。まずは販売強化を目的
に駐在事務所を開設する。
今後はさらに、欧州の開
拓準備を進めている。イン
ド同様、販売拠点から始め
る計画だ。将来的には生産
拠点の設置も検討してい
る。

——26年3月期の取り組
みを教えてください。

児嶋 工場の自動化を進
めていく。すでに中国工場
では材料の投入や受け取
り、運搬、梱包、検査など
の工程で自社開発のロボッ
トを使用している。中国で
大きな利益が出ていたの
は、自動化による効率的な
生産の貢献が大きい。それ
を他拠点にも展開していく
計画だ。また、国内におけ
る両面の生産体制の再構築
も進めている。生産効率化
に向けて京都は少量多品
種、新潟は量産など各工場
の役割分担も進め、国内の
利益を高めていく。これら
の取り組みにより、中期経
営計画の最終年度となる今
期は、目標である売上高2
70億円、営業利益16億円
を達成できるとみている。
（聞き手・日下千穂記者）

26年3月期も過去最高業績へ

インドネシア拠点に投資

片面板で世界最大規模を
誇るプリント配線板メーカ
ーの（株）京写（京都府久御山
町）は、過去最高の業績を
計画するなか、さらなる事
業成長に向け、金属基板事
業の強化に加え、インドネ
シアやインドにおいて生産
や販路の拡大を加速中だ。
代表取締役 社長執行役員
の児嶋一登氏に伺った。

——2025年3月期の
振り返りを。

児嶋 25年3月期は、売
上高が前期比7%増の26
2億円、営業利益が同18%
増の12・7億円と増収増益
で、過去最高の業績となっ

た。国内向けが自動車向け
の需要低下の影響により苦
戦した一方、海外向けは在
庫調整が正常化し、受注が
回復傾向となっている。国
内の苦戦を海外向けでカバ
ーできている状況だ。

海外は、OA機器関連の
在庫調整が正常化し、前年
度比で増加となった。製品
では、前期から本格生産を
開始したアルミ基板が大き
く寄与した。

——実装事業はいかがで
しょうか。

児嶋 航空機向けが堅調
に推移している。また、海
外を含む新規顧客の開拓に
も努めており、増収に貢献
した。

——26年3月期も増収増
益を計画されています。

児嶋 国内は現在が最も
厳しい状況であり、増加に
転じると予想する。海外で
には、総合化学メーカーの

の生産について、九州工場
での生産も開始しており、
業績に貢献する見込みで、
これらにより26年3月期も
過去最高を更新できる見通
しだ。

——注力分野や市場につ
いて教えてください。

児嶋 金属基板のさらなる
加速を推進する。具体的
には、総合化学メーカーの